

ソニーHPより

(<http://www.sony.co.jp/SonyInfo/CorporateInfo/History/prospectus.html>)

設立趣意書

1946年（昭和21年）1月、ソニーの創業者のひとり、井深大（いぶか まさる：ファウンダー・最高相談役）が起草。

「東京通信工業株式会社設立趣意書」

※東京通信工業株式会社は、1958年（昭和33年）に社名を現在のソニー株式会社に変更。

東京通信工業株式会社設立趣意書 - 井深大

戦時中、私ガ在任セル日本測定器株式会社ニ於テ、私ト共ニ新兵器ノ試作、製作ニ文字通り寢食ヲ忘レテ努力シタ、技術者数名ヲ中心ニ、真面目ナ実践力ニ富ンデイル約二十名ノ人達ガ、終戦ニ依リ日本測定器ガ解散スルト同時ニ集マツテ、東京通信研究所ト云フ名称デ、通信機器ノ研究製作ヲ開始シタ。

コレハ技術者達ニ技術スル事ニ深イ喜ビヲ感ジ、ソノ社会的使命ヲ自覚シテ思イキリ働ケル安定シタ職場ヲコシラエルノガ第一ノ目的デアッタ。戦時中、総テノ悪条件ノ基ニコレ等ノ人達ガ孜々トシテ、使命達成ニ努メ大イナル意義ト興味ヲ有スル技術的テーマニ対シテ驚クベキ情熱ト能力ヲ発揮スル事ヲ実地ニ経験シ、又、何ガコレ等ノ真剣ナル気持ヲ鈍ラスモノデアルカト云フ事ヲ審ニ知ル事ガ出来タ。

ソレデコレ等ノ人達ガ、真ニ人格的ニ結合シ、堅キ協同精神ヲ以テ思フ存分技術能力ヲ発揮出来ル様ナ状態ニ置ク事ガ出来タラ、例ヘ其ノ人員ハ僅カデ、其ノ施設ハ乏シクトモ其ノ運営ハ如何ニ楽シキモノデアリ、其ノ成果ハ如何ニ大デアルカラ考ヘ、コノ理想ヲ実現出来ル構想ヲ種々心ノ内ニ書イテ来タ。

トコロガハカラザル終戦ハ、之ノ夢ノ実現ヲ速進シテ呉レタ。誰レ誘フトモナク志ヲ同ジクスル者ガ自然ニ集リ、新シキ日本ノ発足ト軌ヲ同ジウシテ我々ノ発足ガ始マツタ。発足ニ対スル心構ヘヲ今更喋々スル要モナク、永イ間皆ソノ間ニ自然ニ培レテイタ共通ノ意志ニ基イテ全ク自然ニ滑リ出シタノデアル。

最初ハ、日本測定器カラ譲渡シテ貰ッタ僅カナ試験器ト材料部品ト小遣ヒ程度ノ僅カナ資金ヲ以テ出来ルダケ小サナ形態デ何トカ切抜ケテ行ク計画ヲ建テタ。

各人ハ、其ノ規模ガ如何ニ小サクトモ其ノ人的結合ノ緊密サト確固タル技術ヲ持ッテ行バ如何ナル荒波ヲモ押シ切レル自信ヲ持ッテ大キナ希望ヲ以テ出発シタ。斯様ナ小サナ規模デ出発シタ所以ハ、コノ国家的大転換期ニ於ケル社会情勢ノ見透シガ出来ズ、又我々ノ仕事ガ社会ニ理解サレ利用価値ヲ見出サレル迄ニハ、相当ノ期間ヲ要スルト考ヘタカラデアル。然ルニ實際ニ動き出シテ見ルト我々ノ持つ様ナ技術精神ヤ経営方針ガ如何ニ現下ノ日本ニトッテ緊急カクベカラザル存在デアッタカラ各方面カラノ需要ノ声ヲ通ジテハッキリ自覚セシメラレタノデアッタ。

其レハ先ツ通信院、運輸省等ノ通信ニ関係アル官庁ノ活潑ナ動きニ見出サレタ。即チ全波受信機ノ一般ヘノ許可民間放送局ノ自由開始、テレビジョン試験放送或ハ戦災通信網ノ急速ナル復興、意図トソノ綿密龐大ナル諸計画ノ発表等他ノ低迷困惑セル諸官庁ノ中ニアッテ一人水際立ッタ指導性ヲ示シ一般業者側ガ逆ニ牽引サレタカノ感ヲ呈シタノデアツタ。

斯ル動きハ特ニ過去ニオイテ通信院ト関係ノ深カッタ我々ニ対シ直接ノ影響ヲ及ボシ、早くモ真空管電圧計等ノ多量注文ヲ見ル結果トナリ。

其ノ他短時日ノ間ニコノ方面ヨリ提案サレタ新製品ノ研究、試作依頼ノ種目ハ相当量ニノボル状態デアル。又間接的の面カラ云ヘバ全波受信機ノ一般許可ニ依ル影響ハ終戦後ノ「ラヂオプログラム」ニ対スル新シイ興味ト共ニラヂオセット其ノ物ニ対スル一般ノ関心ヲ急激ニ喚起シ戦災ニ依ル「セット」電気蓄音機類ノ大量焼損モ相待ッテ我ガ社ノラヂオサービス部ニ対スル需要ヲ日ヲ追ッテ増加セシメタノデアル。其ノ他諸大学、研究所ノ学究、同ジ志ヲ有スル良心的企業家等ト特ニ深イ相互扶助的の連繋ヲ持ツ我々ハコノ方面ヨリノ優秀部品類ニ対スル多種多彩ナ要求ニ当面シツツアルノデアル。

以上ノ如キ各方面ヨリノ需要ノ増大ハ我々ニ新シイ決意ヲ促シタノデアル。即チ資本ト設備ヲ拡充スル事ノ必要ト意義ヲ痛感シタノデアル。

我々ノ心カラナル試ミガ、カクモ社会ノ宏般ナ層ニ反響ヲ呼び起シ、発足ヨリ旬日ヲ経ズシテ新会社設立ノ気運ニ向ッタ事ニ対シ、我々ハ云ヒ知レ又感動ヲ覚ヘル。ソレハ単ニ我ガ社ノ前途ニ赫々タル発展飛躍ヲ約束スルバカリデナク我々ノ真摯ナル理想ガ再建日本ノ企業ノ在リ方トハカラズモ一致シタ事ニ対スル大ナル喜ビカラデアル。

会社設立ノ目的

一、 真面目ナル技術者ノ技能ヲ、最高度ニ發揮セシムベキ自由豁達ニシテ愉快ナル理想工場ノ建設

一、 日本再建、文化向上ニ対スル技術面、生産面ヨリノ活潑ナル活動

一、 戦時中、各方面ニ非常ニ進歩シタル技術ノ国民生活内ヘノ即事応用

一、 諸大学、研究所等ノ研究成果ノ内最モ国民生活ニ応用価値ヲ有スル優秀ナルモノノ迅速ナル製品、商品化

一、 無線通信機類ノ日常生活ヘノ浸透化並ビニ家庭電化ノ促進

一、 戦災通信網ノ復旧作業ニ対スル積極的の参加並ビニ必要ナル技術ノ提供

一、 新時代ニフサワシキ優秀ラヂオセットノ製作普及並ビニラヂオサービスノ徹底化

一、 国民科学知識ノ實際的の啓蒙活動

経営方針

一、 不当ナル儲ケ主義ヲ廃シ、飽迄内容ノ充実、実質的の活動ニ重点ヲ置キ、徒ラニ規模ノ大ヲ追ハズ

一、 経営規模トシテハ寧ロ小ナルヲ望ミ大経営企業ノ大経営ナルガ為ニ、進ミ得ザル分野ニ技術ノ進路ト経営活動ヲ期スル

一、 極力製品ノ選択ニ努メ技術上ノ困難ハ寧ロ之ヲ歓迎、量ノ多少ニ関セズ最モ社会的の二利用

度ノ高イ高級技術製品ヲ対象トス、又単ニ電気、機械等ノ形式的分類ハサケ、其ノ両者ヲ統合セルガ如キ他社ノ追隨ヲ絶対許サザル境地ニ独自ナル製品化ヲ行フ。

一、 技術界業界ニ多クノ知己關係ト絶大ナル信用ヲ有スル我が社ノ特長ヲ最高度ニ活用シテ大資本ニ充分匹敵スルニ足ル生産活動販路ノ開拓資材ノ獲得等ヲ相互扶助的ニ行フ

一、 従来ノ下請工場ヲ独立自主的經營ノ方向ヘ指導育成シ、相互扶助ノ陣營ノ拡大強化ヲ計ル

一、 従業員ハ厳選サレタル可成小員数ヲ以ッテ構成シ、形式的職階制ヲサケ、一切ノ秩序ヲ実力本位、人格主義ノ上ニ置キ個人ノ技能ヲ最大限ニ發揮セシム。

一、 会社ノ余剰利益ハ適切ナル方法ヲモッテ全従業員ニ配分、又、生活安定ノ道モ實質的面ヨリ充分考慮援助シ、会社ノ仕事即チ自己ノ仕事ノ觀念ヲ徹底セシム。

経営部門

一、 サービス部

全波受信機ノ普及、家庭電化、テレビジョン受信機ノ現出等ヲ考エレバ今後コノ部門ノ活動ハ質量共ニ其ノ重要度ヲ加ヘル事ハ必至ノ事実デアル。従来我が国ニオイテハ「ラヂオサービス」ト云ヒ得ル程ノモノ皆無ニシテ只技術程度ノ低イラヂオ業者ノ片手間仕事ニ墮シテイタ現状デアルガ将来ハ高級受信機ノ出現ト共ニ斯カル業者ハ当然影ヲ消サザルヲ得ル運命ニアリ逆ニ其ノ需要面ノ広サト起業意義ノ大キサノ為一流セットメーカートタイアップセルサービス専門ノ大会社ノ出現スラ充分予想サレル所デアル。

当社モソノ自覚ニ基ツイテ技術ト測定機ヲ思フ様、駆使シ徹底シタサービス活動ヲ行フ計画デアル。其ノ一例トシテサービス専用ノ小形自動車設置案ガアル。即チ電気蓄音機ハ云フ迄モナク高級受信機テレビジョン受信機等ハ重量容積等ガ相当大ニナル事実ニ鑑ミ一切ノ測定修理サービス用具ヲ完備セル小形自動車ヲ常備シ電話一本ニヨッテ縦横自在ニ走セ廻リ迅速ニ己ガ任務ヲ遂行セントスルモノデアル。カクスレバ仕事ノ能率ハ元ヨリサービスニ従事スル技術者ノ数モサービス要具モ少クテ済ミ一般ノ便宜ニ利スル点大ナルモノガアルト信ズル。

又地方ノ需要ニ関シテハ目下近接他府県ヨリ運搬ノ困難ヲ犯シテ当所ニ持ち込まレル高級セットノ数ノ少クナイ点ヲ考慮シ将来ハ地方ノ特定ラヂオ商ト契約期日ヲ定メテ一括修理ヲ行フ予定デアル。

政府ニヨル全波受信機ノ一般許可ハ大小ノ無線会社ヲ刺激シ目下全波受信機ノ製造ガ盛ンニ行ハレツツアル現状デアルガ資材其ノ他ノ關係上尚コレ等ノ製品ガ市場ニ出廻ル迄ニハ相当ナ日月ヲ要スルモノト考ヘラレ、コノ時間的空隙ニ於ケル一般需要ニ応ヘテ当社ニ於イテハ目下従来ノ手持受信機ニ付加装置ヲ附スル事ニ依ッテ簡単ニ全波受信機ニ改造出来ル方法ヲ工夫創案シ鋭意製作中ナルモコノ付加装置ハ使用資材ガ少ク技術的ニ高級性能優秀ナル為既ニ一般及ビラヂオ商方面ヨリ予約申込ヲ続々見ツツアリ。当社ニ於イテハ大体明年六月迄ニ五〇〇台（価格四〇万円）ヲ製作スル予定ニテ以後ハ全波受信機ノ市場出廻リ状況如何ニ依リ態度ヲ決スル予定デアル。

当社ヘノ修理依頼ハ戦災ニ依ル被害数量ノ多キ為ト高級セットヲ安心シテ託スルニ足ル信用アルラヂオ業ノ少キ為、日ヲ追ッテ増加シツツアリ、コレニ対シ当社ニテハ利益ヲ第二義トシ例ヘバ故障修理理由ヲ素人ニモ理解シ易キ様ニ解説シタルメモヲ与ヘルガ如キ親切丁寧ナル方法ヲ以テサービス精神徹底化ヲ期シツツアリ、一旦手掛ケタルセットハ最後迄其ノ責任ヲ持ち如何ナル煩雑ナル要求ニ対シテモ快ク応ズル精神ノ態度ハ我がサービス部ノ本質ナルモノデアル。

其ノ他数ハ少キモ絶対他社ノ追隨ヲ許サザル最高水準ヲ行ク高級受信機ノ製造、当社独自ノ電気部品、家庭電化用品ノ製作モ種々企画シツツアリ。又海外技術ノ紹介、一切ノ無線史料、図書ヲ具備セル図書館ノ設置講習会開催ニヨル一般電気知識ノ啓蒙活動等モ将来ノサービス部ノ重

要ナ課題トナルデアラウ。

(株主トサービスノ問題)

尚将来株主ニ対スルサービス(電気一般)ハ特ニ重点的ニ之ヲ行フ予定デアル。即チ株主対会社ノ一般ノ關係ニ自由ニサービスヲ要求出来ル會員制度的性格ヲ持タセル事ハ意義アリ興味アル試ミト思考サル。

新シイ機械、テレビジョン家庭模写電信(無線ニ依リ新聞ヲ伝送印刷スル装置)等ノ新製品ヤ家庭電化用品ヲ優先的ニ提供シ従来ノ一般ノ關係ヨリ、特色アル緊密ナ形ニ結び付ケルデアラウ。

家庭電化ガ日ヲ追ッテ盛ンニナル傾向ニアル今日特ニソレハ有効適切ナ方法ト思考サレル。

二、測定機器部門

現在ラチオ製造者ノ数ノ多キニ比シテコレノ製作修理ニ必要ナル測定器ノ製作者ハ極メテ寥々タルモノデアリ又一般ラチオ業者ニシテ調整修理ニ当リ測定器ヲ用フル者ハ皆無ニ近イ状態デアル。然シ従来ノ一般ニ普及セル程度ノラチオ受信機ナラバ現在ノラチオ業者ガ行ッテイルガ如キ所謂『カン』ニ依存シタ方法モ可能ナルモ今後高級受信機、全波受信機ヲ一般ガ使用スル様ニナレバカカル非科学的方法ハ其ノ存在ヲ許サレナクナル事ハ明白ナ事実デアル。過去ニ於テ測定器製造ガ活潑ニ行ハレナカツタ理由ハ技術ノ困難ト多数ノ標準器ヲ必要トシタ為デアルガ何レニセヨ測定器製造業者ノ数ガ少イト云フ事実ハコノ方面ヘノ技術的經營的分野ガ未ダ多分ニ残サレテイルト云フ事ヲ物語ルモノデアル。即チ使用資材ガ少ク価格ガ高価テ競争相手ガ少イト云フ点テ極メテ經營的ニ有利デアリ高度ナ技術ヲ有スル企業家ニトッテハ真ニ絶好ナ進路ト云フベキデアル。

我々ハ過去ニ属シタ日本測定器株式会社ハコノ数少イ測定機器製造業ノ内ノ屈指ノモノデアッテ僅カナ資本ト貧弱ナ設備ヲ持ッテ極メテ短日月ノ間ニ驚クベキ発展ヲ遂行シ得タノモ時局トハ云ヘー重ニ測定機器部門ノ持つ經營的特性ニ依ッタモノト断言出来得ルノデアル。

日本測定器株式会社ノ主要製品ノ一ツタル超短波用ノ真空管電圧計ハ我々ノ十年近イ年月ト血ノ滲ム用ナ努力ノ結晶デアッテ、其ノ一般ニ於ケル絶大ナ定辞ハ云ハズモガナ正ニ我が国ノ世界ニ誇リ得ル測定器ノ一ツデアル事ハ今回米国進駐軍ガコレニ対シ異常ナ感心ヲ持チ参考ノタメ本国ニ持帰ツタ事実ニヨッテモ雄弁ニ物語ラレル所デアラウ。コノ真空管電圧計ハコノ度ノ新会社ニ於テモ其ノ儘踏襲シテ製作サレル予定テ既ニ逋信院ヨリ本年度トシテ百五拾台(約三十万円)ノ発注ヲ見、三月末マデニ完成ノ予定ニテ目下鋭意進行中デアル。尚逋信院トシテハ二十一年度ノ一括発注モ用意サレテアリ、一般ヨリノ需要モ相当量ニノボル事ハ必至ニテ又将来テレビジョン開始トナレバ欠クベカラザルモノナルデアラウ事等ヲ考ヘレバ単ニ真空管電圧計一種ノミヲ製造品目トシテモ充分会社ノ經營ハ成立シ得ルモノト思考サル。

其ノ他特殊ナ高級測定器ヲ順次製作スル計画デアルガ特ニ重点ヲ置キ度イノハ余リ技術的訓練ヲ受ケテイナイラチオ商ニモ高級ラチオ診断ガ自動的ニ行ヘル様ナサービス用測定器云ヒカヘレバセット分析器ト云ッタ如キ種類ノ測定具ノ製造デアル。カカル測定器ノ普及ニ依ッテ一般ラチオ商ノサービスヲ真ノサースタラシムル事ガ社会的ニ充分意義ヲ有スルモノト信ズル。

ソシテコレハ大セットメーカート連結シ其ノ適合シタ診断ヲ行ヘルガ如キ装置ニスル予定デアル。

前記サービス部門ハ大衆相手ノ直接ノサービスヲ意味スルトスレバ街頭部門ト云ヘバ専門家相手ノサービス部門ト云ヒ得ルデアラウ。サービス精神ノ徹底化ヲ計ル事ハ前者ノ場合ト勿論同様デアル。

三、 通信機部門

前述二部門ハ大体会社ノ維持経営ヲ分担スル部門デアルガ、該当部門ハ当分ノ間新シキ特殊通信機ノ試作研究ヲ分担シ今日ヨリモ会社ノ明日ニ備ヘ将来ノ大飛躍ヲココニ期待シ得ルノdeal。通信院、運輸省、内務省等ハ再建日本ノ重要課題タル通信網ノ能率上昇ヲ積極的ニ企画シツツアリ、当社モ其ノ要望ニ応ヘ全ク新シキ種々ノ試作ヲ実践中ニシテ其ノ内ノ主ナルモノヲ次ニ簡單ニ説明スレバ、

イ、 時分割多重通信方式

コレハ現在ノ有線或ハ無線ヲシテ簡單ナ装置デ三十、四十等ノ多重通話ヲ可能ナラシムルモノデアッテ東北帝大ノ通信研究所ニ於テ昭和十八年ヨリ研究ヲ開始、戦時中、特ニ発達シタ電波警戒ノ技術ヲ多分ニ取り入レタル極メテ特色アル方式ニヨルモノデアリ通信院、運輸省デモ其ノ成果ヲ非常ニ注目シツツアリ、鉄道省発注予定ノ試作セットガ完成シ成功スレバ現在計画中ノ青函十二重超短波無線電話装置（見積価格、約五六十万円）ノ注文ハ当社ニ来ル予定ナリ。

ロ、 簡易重畳電話装置

コレハ現在ノ電話線ニ尚一通話増シテ二十通話ヲ可能ナラシムル（現在ノ線路ヲ使用シテ倍ノ通話ヲ可能トス）非常ニ簡單ナ装置デ既ニ日本測定器株式会社ニ於テ全ク他ノ目的ヲ持つテ多年研究サレタル或種ノ兵器ヲ若干改良スレバコノ目的ヲ充分果シ得ラレルノdeal。目下盛ンニ試作中ナルモノコレモ又当社技術人ノ独壇場才家芸ノーツデアッテ完成ノ上採用トナレバ其ノ需要度ハ恐ルベキモノデアラウ。

ハ、 録字通信機

コレモ戦時中航空通信ニ用ヒ操縦士ニ電信符合拾得ノ煩カラ脱セシムル目的ヲ持つテ企画サレタモノデ完成ヲ見ズシテ終戦トナツタモノdeal。送信側ニ於テ電鍵ノ代リニ五十音ノタイプライターヲ叩ケバ受信側デハ通信文ノ五十音ガ順次テープ上ニ印字サレツツ出テ来テ通信ガ終レバテープハ停止スル。装置ハ簡單デアリ送信装置ハ大体携帯用タイプライター同型、受信装置ハ手提金庫程度ノモノデ有線無線双方ニ使用出来、将来電信局デコレヲ叩ケバ加入者側デハテープノ電報ヲ受ケル事ナリ又家庭デ電話ヲカケテ留守ノ場合等ハコチカラ伝言ヲ叩イテ置ケバ何等ノ技術モ要セズ先方ヘ伝言ヲ書イタテープヲ残ス事ガ出来ルノdeal。又鉄道等ノ指令装置ニ用ヒテモ命令ノ内容ガ明瞭ニ印刷サレル為極メテ多ク電信機ノ当然到達スベキ理想ノーツノ型dealガコレノ完成ハ非常ニ意義深イモノガアラウ。本機ノ製作ハ相当精密ナ機械装置ヲ必要トシ現在ノ状態デハ即時製品化スル事ハ困難dealガ取敢ズ試作ダケハ完璧ナモノニスル為設計進行シツツアル。

ニ、 プログラム選択受信方式

コレモ日本測定機器株式会社ニ於テ研究完成シタル兵器ノ応用品deal。放送局ニ於テ其ノプログラム毎ニ異ツタ周波数ノ音（例ヘバニュースナラバ「ド」音楽ナラバ「レ」ノ如ク）ヲ放送前ニ一寸出ス（ピアノヲ叩ク程度ニテヨシ）ト受信側デハ其ノ音ノ高サニヨツテ動作スル周波数継電器ガ動作シテ受信機ガ働ク其レ故ニ聴取者ハ自分ガ聞キタイト思フプログラム丈ノボタンヲ押シテオケバ自動的ニラジオノスイッチガ入ツテ其ノプログラムノミ聞ク事ガ出来ル。其レガ終レバ矢張り特定音ヲ出シ又自動的ニスイッチヲキル事ナル。其ノ他コノ装置ヲ用ヒ自動的ニ時報ニ時計ヲ合ス事モ可能deal。

ホ、 其ノ他特殊部品

音又発振器、濾波継電器、音又時計等ノ如キハ当社独特ノモノデ戦争目的ヲモツテ研究製作シ来レルモノノ内今後ノ通信技術方面ニ轉換利用可能ナルモノ数多クアルヲモツテ各方面ノ要求ニ応ジ逐次製作シ行ク予定ナリ。